

第3回 安全性向上有識者会議

議事概要

1. 日 時

2018年6月13日（水） 14:00～16:00

2. 出席者

<委員>

宮川 豊章 座長、高野 研一 座長代行、池田 桂子 委員、指田 朝久 委員、鈴木 和幸 委員、松田 好史 委員（委員は50音順）

3. 議 事

「安全性向上への不断の取組み」実施状況報告（2017年度）

4. 議事概要

（1）「5つの取組み方針」に基づく取組み状況の全体を俯瞰したご意見

- ・「安全性向上への不断の取組み」実施状況（2017年度）を事務局から報告した後、意見をうかがった。2017年度の取組み全般について、委員からは、
 - 道路構造物のみの安全から幅広い安全に活動範囲を拡大したことは会社として良い方向性である。
 - グループ一体となった安全意識向上への取組みにおいては、課題を認識して対応が図られてきている一方、意識水準を上げていくためには改善すべき点も残されている。
 - リスクの観点においては、社外事例にも目を向けるなど、新たな取組みが実施され、PDCAをしっかりと回しスパイラルアップしているものと認識される。
 - 道路構造物の近接目視点検や人財育成などの取組が計画どおり進捗しており、その努力は評価できる。

（2）「5つの取組み方針」に基づく取組みの今後の取組みへのアドバイス

- ・今後の取組みにおける留意事項として、以下のようなアドバイスがあった。

【安全を最優先とする企業文化の醸成】

- 経営層は、安全最優先の意識を維持向上させるための仕組みにおいて、常に工夫を加え粘り強く継続していくことが必要である。
特に、階層間、部門間などの共通認識の醸成に向けた取組みにおいては、コミュニケーションの充実に留意すべきである。

【道路構造物の経年劣化や潜在的リスクに対応した業務プロセスの継続的改善】

- 社内外のインシデント情報を積極的に収集し、構造物のリスク対応を確実に継続するとともに、顕在化したリスクが再潜在化することがないように仕組みを根付かせることが重要である。
- 構造物が設置されている環境や時間要素を考慮したデータの収集・定量化によりライフサイクルコストを意識した管理をすることが重要であるとともに、高度で効率的な新技術の開発を推進・発表し、更に外部で採用されるなど、技術的な評価を受けることを期待する。

【安全活動の推進】

- 道路構造物の変状及び点検・補修の状況を、経営陣が成果と結果を区別してマネジメントし、現場と共有することが重要であり、成果をグループ社員やお客さまが理解できるよう情報発信していくことが必要である。
- 安全に関する情報から得られた知見を全社的に活用するための工夫を凝らしていくことが重要であり、そのためには各組織の特徴を考慮した現場支援やフォローアップを行うことが効果的である。

【安全を支える人財の育成】

- 安全性向上の使命感を持った人財を育てるためには、研修の充実に加え、人事交流の促進・褒める文化の更なる醸成・積極的な社員意見の採用などにより、モチベーションを向上させることが重要である。
- 一人ひとりの技術力を向上させるとともに、高度な技術を持った人財の採用・保持や育成が重要である。

【安全性向上に向けた着実かつ効率的な事業の推進】

- 事業を着実かつ効率的に推進するためには、経営資源の確保・適切な配分と、現場公開などによるステークホルダーの理解を得ることや入札不調工事における安全の観点でのマネジメントが重要である。
- 今年度は5ヵ年点検の最終年度であり、今後の補修やリニューアル工事にあたっては、リスク量の変化を取りまとめ、集大成するとともに、これらの情報を踏まえた計画を作成し実施する必要がある。

以 上